

太政類典第一編

第二百十卷

第六類
五冊
架
四函

復古始末
諸侯向背
勤 土
德 處 分
川

国立公文書館

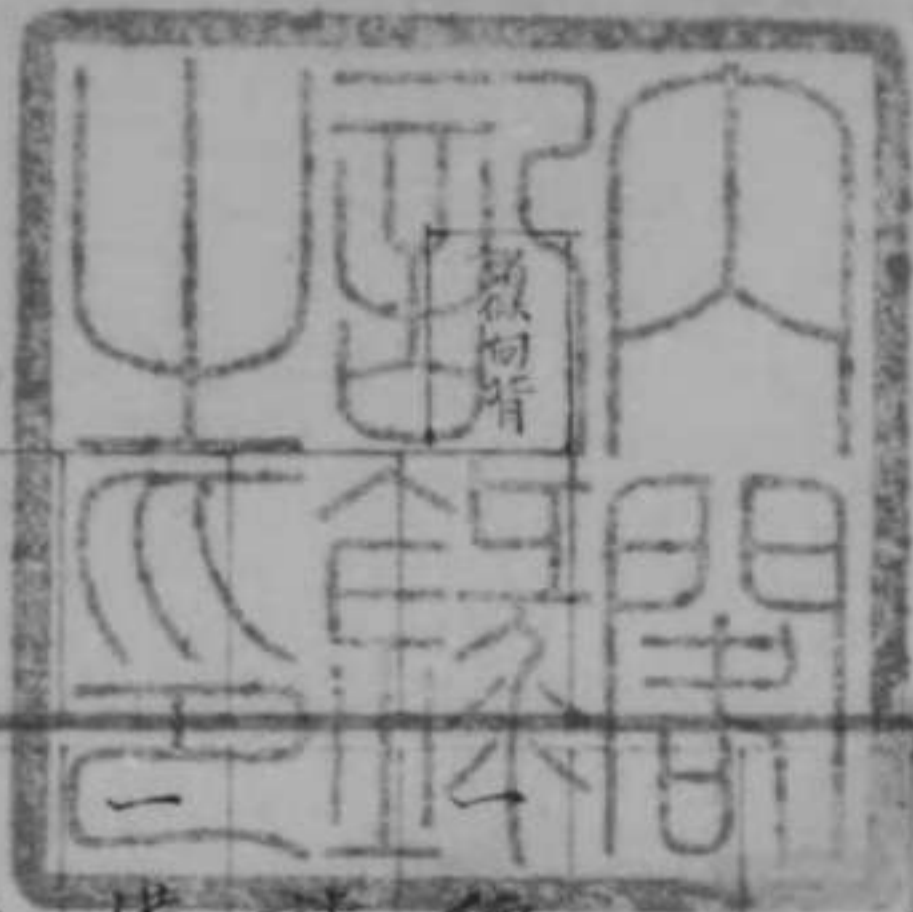
分類

配架番号

2 A

9

Ⓣ 210



太政類典第一編第二百十卷索引

復古始末五

徳川慶勝其隣近諸藩、方嚮ヲ問ハント
諸ノ之ヲ可ス

元年
正月八日

一

備前藩兵櫻井忠興、向背ヲ問フ忠興ノ
老臣奉上或ナキヲ證書ヲ致ス

元年
正月十日

二

一肥後藩延岡藩兵抗敵ノ供狀ヲ上ル

元年
正月十八日

三

一池田茂政兵ヲ發シテ傍近譜第諸藩ノ向
背ヲ問フ

元年
正月十七日

四

一長門藩兵松平慶倫ノ向背ヲ問フ

元年
正月十九日

五

一松平慶倫書ヲ上リ備前藩兵未討ノ聞工
アルヲ稟訴ス

元年
正月二十日

六

勤王

一高松實村松ニ京師ヲ去リ甲信諸藩ノ向背ヲ問フ	元年正月廿六日	七
一徳川慶勝系遠坂濃信甲野七國諸藩以下ノ向背ヲ問フ	元年正月廿九日	八
一牧野貞利黒田直養徳川氏ニ請フテ江戸ヨリ其藩ニ帰ル	元年三月四日	九
一石川聰管同上	元年三月七日	十
一鳥居忠文京ニ在リテ公事ニ服セシト請フ	元年閏四月廿六日	十一
一參河裁判所總督平松時厚帝近諸藩及ヒ旧旗下士ノ情状ヲ陳シ速ニ之ヲ處分セシト請フ	元年五月晦日	十二
一淺野茂勲毛利廣封ト周防新巻ニ會ヒ島	丁卯十月晦日	十三

津茂久ノ至ルヲ待テ俱ニ入京セシトヲ議ス		
一松平武聰ノ老臣書ヲ上リ其主徳川慶喜至親ノ私情ヲ去テ將ニ大義ニ徇ハシトス	元年正月十五日	十四
一池田慶徳支族ノ江戸ニ在ルモノヲシテカヲ王事ニ効サシメシト請フ	元年二月朔日	十五
一毛利敬親ノ老臣吉川監物ノ防戦盡カヲ嘉シ尚ホ勵精王事ニ勤メシム	元年二月五日	十六
一間部詮道ノ家臣兵ヲ出シテ王事ニ服セシト請フ	元年二月六日	十七
一松平直己松平直哉宗家ニ屬シテ王事ニ服セシト請フ之ヲ聽ス	元年二月十四日	十八

公文書目録

一	是ヨリ先戸田忠行旁近ノ諸藩ニ移書シ	元年	二月廿五日	十九
	奥俱ニ王師ヲ迎ヘ徳川氏ヲシテ不義ニ			
	陥ラサラシメテ以テ朝廷ノ恩赦ヲ請ハシ			
	テハ勸ム是日江戸ヲ辞シテ封邑ニ歸ル			
	一丹羽氏中及ヒ其家臣勤王誓書ヲ上ル	元年	二月廿六日	二十
	一毛利敬親ノ勤勞ヲ賞シ尚勉勵王室ヲ輔	元年	二月廿八日	二十一
	佐セシム			
	一柳頼明其父頼紹勤王ノ素志ヲ陳シテ	元年	三月三日	二十二
	親征ニ従ハント請フ			
	一内藤信民江戸ヨリ歸藩セシノ状ヲ陳シ	元年	三月廿日	二十三
	王事ヲ勤メント請フ			
	一是ヨリ先徳川慶勝旨ヲ奉シテ東海東山	元年	三月廿七日	二十四
	二道ノ諸藩ヲ勸諭シ王事ヲ勤メシム是			

日慶勝書ヲ上リ其事大抵緒ニ就キ且ニ				
道総督在ルアルヲ以テ其局ヲ收メ爾後				
勤王ヲ請フモノハ直ニ之ヲ太政官ニ申				
セシムルヲ稟ス				
一溝口直正柏崎ニ詣リ総督嘉彰親王ニ謁	元年	八月朔日	二十五	
シ藩情ヲ陳シ王事ニ勤メント請フ之				
ヲ聽ス				
一関長克疾ヲ以テ入覲遼緩ヲ謝シ兵ヲ出	元年	九月十五日	二十六	
シテ報効スル所アラント請フ優旨ニ				
テ聽サス				
一土岐頼知書ヲ上リ從兵ヲシテ王事ニ服	元年	十月四日	二十七	
セシメント請フ				
一東北遊撃軍將久我通久旧盛岡藩士日時	元年	十月十日	二十八	

請フ花セラ諸道總督ノ意見書ヲ上ル	元年	四月廿八日	三十六
一大總督府田安慶頼ニ令シテ德川氏ニ軍艦四隻ヲ賜ヒ其餘ハ悉ク之ヲ收ム	元年	四月十日	三十七
一三條實美ヲ以テ関東監察使ヲ兼テ東下シテ德川氏ヲ處分シ且士民ヲ撫輯セシム	元年	四月十二日	三十八
一邦家親王使ヲ遣シテ入道公現親王ニ上京ヲ勸ム江戸士民等之ヲ聞キ交上書シテ其行ヲ止ム是ニ至テ公現親王入覲邊延ノ状ヲ大總督府ニ申ス	元年	四月廿七日	三十九
一橋茂榮書ヲ大總督府ニ上リ德川ノ臣隸迫切ノ情ヲ陳シ速ニ德川氏ヲ處分シ以テ之ヲ安輯セシテ請フ	元年	五月二日	四十

一田安慶頼德川家達ノ幼冲ナルヲ以テ松平齊氏ヲシテ之ヲ輔ケシメシテ大總督府ニ請フ之ヲ聽ス	元年	五月十日	四十一
一橋茂榮書ヲ大總督府ニ上リ德川氏ノ臣隸危懼不安ノ情ヲ陳シ速ニ德川家達ノ封土ヲ定メ且慶喜ヲ江戸ニ召還シ以テ衆心ヲ鎮輯セシテ請ヒ又其弟松平容保松平定敬ノ為ニ哀ヲ請フ	元年	五月廿三日	四十二
一參與大久保利通ヲシテ江戸ニ駐在セシム	元年	五月廿六日	四十三
一德川家達ノ移封等ノ事ヲ外國公使ニ報ス	元年	五月廿七日	四十四
一三條實美手詔ヲ親子内親王ニ傳ヘ德川	元年	五月廿七日	四十四

氏慶分既ニ畢ルヲ告ケ其去住ヲ問フ内
親王恩命ヲ謝シ暫ク西上ノ期ヲ緩クセ
ント請フ

一勅使ヲ神宮及熱田宮ニ遣シ大政復古ヲ
告ケ且東北平定ヲ祈ル

元年
六月
廿六日

四十五

元年正月八日

徳川慶勝其隣近諸藩ノ方嚮ヲ問ハント請フ之ヲ可ス

徳川慶勝上申

昨夜被 仰出之趣ニ付テハ領下近隣諸藩之意底勤

玉不勤

玉之境ニ難辨候付精々勤

玉之道ニ相誘若異存之輩ニ有之差拒ミ候節ハ兵力

ヲ用ケ候儀モ可有之此段為念申上置候事 正月

批紙

総テ伺之通被

仰出候精々勤 玉之道ニ誘候様被

仰付候事 徳川義直家記